

古今一如

— ここんいちによ —

「古今一如(ここんいちによ)」とは、「時間の流れはもともと一体で、不二同一の理である」という意味です。県史跡相馬御風宅の奥土蔵の扉に刻まれた字体を集字して使用しています。当館前庭左側に石碑もあります。

ごあいさつ

館長 伊藤 伸一

日ごろ、糸魚川歴史民俗資料館事業に御支援、御協力を賜り厚く感謝申し上げます。

また、多くの皆様からお寄せいただいた貴重な資料は、当館所蔵資料の充実、さらには当市文化醸成の大切な肥やしとなるものと重ねてお礼申し上げます。

当館は昭和52年に開館し、平成8年から相馬御風記念館の看板も掲げ、多くの皆様に愛されてまいりました。御風は、多くの童謡や校歌を作詞した文人であるとともに、ヒスイや長者ヶ原遺跡を世に出したといわれる人物であり、当地の民俗、風習など様々な固有文化に光を当てる郷土の偉人です。当市の歴史や文化を語る上で欠かせない存在であり、当館はその遺品や偉業を適切に保管、展示し、後世へ引き継ぐ使命も担っています。

また、当館には、木村秋雨や、良寛研究の第一人者であった御風が収集した良寛資料を数多く収蔵しています。こうした資料を、毎年度1〜2回、テーマを絞った企画展として開催し、延べ50回を数えるまでに至りました。今後もさらに未公開資料に光を当てていければと考えています。

さて、かつて西浜七谷と呼ばれた当地では、谷々で独自の文化、風習が形成されてきました。同じ市内でも東と西、海と山では生活様式などにそれぞれ特徴が見られます。閉鎖、分断されていたが故に他の文化や技術が入らなかつた反面、谷独特の風習や生活様式が他の影響を受けずに残され、文化の保存という観点からは逆に好条件であつたと考えられます。こうした多様で独自の文化や風習を残し伝えていくことは大変困難なことではあります。引き続き精力的に取り組んでいきたいと考えます。

当館は現在、ほぼ御風記念館として展開されており、御風や良寛の研究者にとつて、専門性の高い資料館として広く認知されています。先輩諸氏が御風の功績に光を当て続けてきた結果であり、大変うれしく思います。

ただ、市内の歴史や民俗・風習などを伝えきれない点は否めません。御風自身が郷土に光を当てたいと願っていたことを想うと、限られたスペースをどう活用できるかが今後の大きな課題であり、御風の偉業に敬愛の念を抱きつつも、当館の果たすべき使命を改めて考えていきたいと思ひます。

末筆ではありますが、今後とも当館をご愛顧、ご活用くださいますよう、何卒お願いを申し上げます。

令和元年度 寄贈資料の紹介

【書籍寄贈】

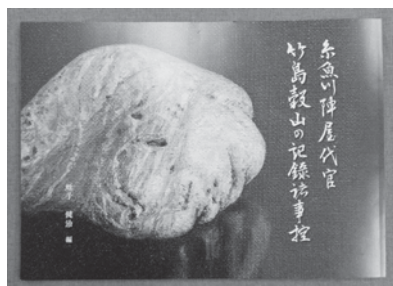
□蛭子 健治 様(新潟県) 3点

文学の碑 糸魚川 1点、

相馬御風の交流と業績の覚書 1点、

糸魚川陣屋代官竹島穀山の記録法事控 1点

・なお、当館で販売もいたしております。



(当館では取扱いしておりません)



¥1,430



¥1,210